

信徒の埋葬祈祷

輔 君や、祝讃しゅくさんせよ。

司 我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。
詠 アミン

ネポロチニ（第一段）

道みちに玷きずなくして主の法律を行なう者は福さいわいなり、「アリルイヤ」
彼の啓示けいしを守り、心を盡つくして彼を尋たずぬる者は福さいわいなり、「アリルイヤ」
光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン、「アリルイヤ」

小 聯 祷

輔 我等復またまた又安和にして主に祈らん。

詠 主憐あわれめよ。

輔 又寝ねりし神の僕（婢）〔某〕の靈たましいの安息の為、及び彼（等）に凡およそ自由と自由ならざる罪の赦ゆるされんが為に祈る。

詠 主憐あわれめよ。

輔 主神が彼（等）の靈を諸義人しよぎじんの安息する所に入れ給たまわんことを祈る。

詠 主憐あわれめよ。

輔 彼（等）に神の憐あわれみと天国と諸罪しよざいの赦ゆるしとを賜たまわんことを、ハリストス我が死せざる王及び神に願う。

詠 主賜えよ。

輔 主に祈らん。

詠 主憐あわれめよ。

司 蓋けだしハリストス我等の神や、爾は寝りし爾の僕（婢）〔某〕の復活と生命いのちと安息なり、我等われら光荣を爾と爾の無原むげんの父と至聖至善にして生命を施す爾の神しんとに献ず、今も何時も世世に。
詠 アミン。

安息のトロパリ（第五調）

（聖歌譜の歌詞に倣って記載）

〔附唱〕 主や、爾は崇め讃めらる、爾の誠を我に訓え給え。
聖人の群は生命の泉と天堂の門を得たり、願くは我も痛悔を以て道を得ん、我は亡びし羊なり、救世主や、我を呼び返して救い給え。

〔附唱〕 主や、爾は崇め讃めらる、爾の誠を我に訓え給え。

神の羔を傳え、己も羔の如く屠られて、老いざる永久の生命に移りし聖なる致命者や、我等に債の赦しを賜わんことを切に祈り給え。

〔附唱〕 主や、爾は崇め讃めらる、爾の誠を我に訓え給え。

狭く苦しき道を通り、生ける中、十字架を軛の如く負い、信じて我に従える衆人や来たりて、爾の為に備えし誉れと天の栄冠を楽しめよ。（以下省略）

光栄は父と子と聖神に帰す、

一の神性の三の光を敬み歌うて呼ぶ、無原の父と同無原の子と聖神や、爾は聖なり、我等信を以て爾に勤むる者を照らして、永遠の火より出し給え。
今も何時も世世に、アミン。

衆人の救いの為に、身にて神を生みし浄き者や、慶べよ、人の族は爾に因つて救を得たり、浄くして讃美たる生神女や、願くは我等も爾に因つて天堂を得ん。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や、光栄は爾に帰す。（三次）

小 聯 禱

我等復又安和にして主に祈らん。

主憐めよ。

又寝りし神の僕（婢）（某）の霊の安息の為、及び彼（等）に凡そ自由と自由ならざる罪の赦されんが為に祈る。

主憐めよ。

主神が彼（等）の霊を諸義人の安息する所に入れ給わんことを祈る。

主憐めよ。

彼（等）に神の憐と天国と諸罪の赦とを賜わんことを、ハリストス我が死せ

詠 ざる王及び神に願う。

主賜えよ。

主に祈らん。

主憐めよ。

司 詠 蓋ハリストス我等の神や、爾は寝りし爾の僕（婢）〔某〕の復活と生命と安息なり、

我等光榮を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに献ず、今も何時も世世に。

アミン。

司・詠 附 詠

主や、寝りし爾が僕（婢）の靈を安んぜしめ給え。（二次）

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

イルモス第六歌頌

誘の暴風にて、浪の立ち揚がる世の海を觀て、爾の穩なる港に着きて呼ぶ、
憐深き主や、我が生命を亡より救い給え。

小 聯 禱

輔 我等復又安和にして主に祈らん。

主憐めよ。

又寝りし神の僕（婢）〔某〕の靈の安息の為、及び彼（等）に凡そ自由と自由ならざる罪の赦されんが為に祈る。

主憐めよ。

主神が彼（等）の靈を諸義人の安息する所に入れ給わんことを祈る。

主憐めよ。

彼（等）に神の憐と天国と諸罪の赦とを賜わんことを、ハリストス我が死せざる王及び神に願う。

主賜えよ。

主に祈らん。

主憐めよ。

司 詠 蓋ハリストス我等の神や、爾は寝りし爾の僕（婢）〔某〕の復活と生命と安息なり、

我等光榮を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに献ず、今も何時も世世に。

アミン。

小讃詞

ハリストスや、爾が僕（婢）の靈を、諸聖人と偕に、疾も悲も歎もなく、終なき生命の在る處に安んぜしめ給え。

同讃詞

※（左の「」内は省略されることがある。）

「人を造りし者や、爾は独り死せざる主なり、我等地の者は、土より造られて亦土に逝かん、爾我を造りし主の命じて我に言いしが如し、爾は土なり、故に土に帰らんと、我等人々皆彼處に往き、」 唯墓の上の嘆に歌いて云うべし。ア Ril イヤ、ア Ril イヤ、ア Ril イヤ。

睿智。

ポロキメン（第六調）

靈や、爾が今往く路は福なり、安息の所、爾の為に備えられしに因る。

詠

輔

誦

詠

誦

詠

誦

詠

誦

詠

誦

輔

誦

輔

誦

靈や、爾が今往く路は福なり、安息の所、爾の為に備えられしに因る。
主我が神や、我爾に呼ぶ。
靈や、爾が今往く路は福なり、安息の所、爾の為に備えられしに因る。
靈や、爾が今往く路は福なり、安息の所、爾の為に備えられしに因る。
安息の所、爾の為に備えられしに因る。
睿智。
聖使徒。パウエルがフェサロニカ人に達する前書の読み。
謹みて聴くべし。

書札

（フェサロニカ前書 四・一三—一七）

「兄弟よ、寝りし者に至りては、我爾等が知らざるを欲せず、爾等が望なき他の者の如く哀しまざらん為なり。蓋若し我等イエスの死して復活せしことを信ぜば、則神はイエスに在りて寝りし者をも彼と偕に攜えん。蓋我等主の言を以て爾等に語ぐ、我等、生きて主の来る迄存する者は、寝りし者に先だたざらん、蓋主親ら、號令と天使首の聲と、神の籟に伴われて、天より降らん、而

してハリストスに在りて死せし者は先ず復活せん、其後我等、生きて存する者は、彼等と偕に雲に挙げられて、主を空中に迎えん、是くの如くして常に主と偕に居らん。」

「アリルイヤー」〔第六調〕 (三次)

睿智、肅みて立て、聖福音經を聴くべし。

衆人に平安。

爾の神にも。

イオアン伝の聖福音經の読み。

主や、光荣は爾に帰し、光荣は爾に帰す。

謹みて聴くべし。

福音 (イオアン伝 五・二四―三〇)

「主は彼に來れるイウデヤ人に謂えり、我誠に誠に爾等に語ぐ、我が言を聴きて、我を遣しし者を信する人は、永遠の生命を有ち、且審判の為に來らず、乃死より生命に移れり。我誠に誠に爾等に語ぐ、時は來る、今は是れなり、死せ

し者は神の子の聲を聞かん、之を聞きて生きん。蓋父が己の中に生命を有つが如く、此くの如く、子にも己の中に生命を有たしめ、且彼に審判を行ふ權を與えたり、其人の子たるに因りてなり。之を奇む勿れ、蓋時は來る、凡そ墓の中に在る者は神の子の聲を聞かん、而して善を行ひし者は生命の復活に出で、惡を為しし者は定罪の復活に出でん。我何事をも己に由りて行ふ能わず。聞く所に遵いて審判す、而して我が審判は義なり、蓋我己の旨を求めず、乃我を遣しし父の旨を求むるなり。」

主や、光荣は爾に帰し、光荣は爾に帰す。

※(此処に「説教」及び「吊辞」「弔電」の奉読が入ることあり。続いて

「別れの接吻」又は「献花」に移るが、この時左のステイヒラを歌う。)

ステイヒラ(第二調)

(聖歌譜の歌詞に倣って記載)

兄弟や來れ、神に感謝して、離別の接吻を死せし者に為さん、蓋彼は親族を離

れ、墓に急ぎて、既に浮世の事と欲に染まる肉体の事とを慮らず、親族と親しき者は今何處に在るや、別る時迫れり、彼の安んぜしめられんことを主に祈るべし。

光榮は父と子と聖神に歸す、(第六調)

兄弟と朋友、親族と知人や、私の聲も無く氣も無く、爾等の前に臥すを見て、我が為に泣けよ、蓋我昨日爾等と與に語りしも、俄に死の畏るべき時我に至れり、我を愛する者や、皆来りて、離別の接吻を我に為せ、我今より爾等と偕に居らず、又爾等と偕に語らざらん、至と公なる審判者に往けばなり、彼處には僕と君共に立ち、王と兵士、富める者と貧しき者、位を同じうす、蓋各其行に依りて、或は榮を獲、或は恥を承けん、諸人に切に願う、常に我が為にハリストス神に祈れよ、我が罪に由つて我苦の處に下されず、乃生命の光の處に入れられんが為なり。

今も何時も世世に、アミン。(同調)

ハリストスや爾を生みし者と、爾の前驅、使徒、預言者、聖主教、克肖者、義人及び諸聖人の祈祷に因つて、寝りし爾が僕(婢)を安んぜしめ給え。

誦

聖三祝文、至聖三者、主經

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。(三次)

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の過を赦せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。

主憐めよ。(三次)

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来たり、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に与え給え、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導かず、猶我等を凶惡より救い給え。

蓋国と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。アミン。

讃詞

詠司

人を愛する救世主や、死せし義人の霊と偕に、爾が僕（婢）の霊を安んぜしめて、彼（等）を爾に在る福樂の生命に護り給え。
主や、爾が諸聖人の安息する處に、爾が僕（婢）の霊を安んぜしめ給え、爾ひとり人を愛する主なればなり。
光榮は父と子と聖神に帰す、
爾は地獄に降りて繋かれし者の鎖を釈きたる神なり、親ら爾が僕（婢）の霊を安んぜしめ給え
今も何時も世世に、アミン。
独 潔く玷なき童貞女、種なくして神を生みし者や、彼（等）の霊の救われんことを祈り給え。

重 聯 禱

神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。
主憐めよ。（三次）

輔 又寝りし神の僕（婢）〔某〕の霊の安息の為、及び彼（等）に凡そ自由と自由ならざる罪の赦されんが為に祈る。

主憐めよ。（三次）

主神が彼（等）の霊を諸義人の安息する所に入れ給わんことを祈る。

主憐めよ。（三次）

輔 彼（等）に神の憐と天国と諸罪の赦とを賜わんことを、ハリストス我が死せざる王及び神に願う。

主賜えよ。

主に祈らん。

主憐めよ。

司 諸の霊神と諸の肉體との神、死を亡ぼし悪魔を虚うし、爾の世界に生命を賜いし主や、爾親ら寝りし爾の僕（婢）〔某〕の霊を、光る處、茂き草場、平安の處、病と悲と歎との遠ざかる處に安息せしめ、善にして人を愛する神なるに因りて、彼（等）が、或は言、或は行、或は思にて犯しし悉くの罪を赦し給え、蓋人一も生きて罪を行わざる者なし、唯爾は罪なし、爾の義は永遠の義、爾の

ことば
言は真実なり。

〔高聲〕 蓋ハリストス我等の神や、爾は寝りし爾の僕（婢）〔某〕の復活と生命と安息なり、我等光栄を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに献ず、今も何時も世世に。

アミン。

睿智。

至聖なる生神女や、我等を救い給え。

ヘルワイムより尊くセラフイムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

ハリストス神我等の侍や、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ（三次）。
福を降せ。

死より復活せしハリストス我等の真の神は、その至浄なる母、光栄にして讃美たる聖使徒、克肖捧神なる吾が諸神父、聖使徒日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて、我等に別れし其僕（婢）〔某〕の霊を、諸義人の住所に入れ、

アウラムの懷に安んぜしめ、諸義人の列に加え、及び我等を憐み給わん、善にして人を愛する主なればなり。

アミン。

永遠の記憶

（一、二、のどちらを用いても良い。）

一、福樂に適いて常に記憶せらるる吾が兄弟（姉妹）〔某〕や、爾の記憶は永遠なる哉。

二、主よ、爾の寝りし僕（婢）〔某〕に、其福なる寝りに於ける永遠の安息を与え、彼（等）に永遠の記憶をなし給え。

永遠の記憶。 （三次）

主に祈らん。

主憐めよ。

赦罪祝文

罪に陥りし者を縛り及び釋く神聖なる権を、其門徒及び使徒等に、又彼等を以

詠
て我等にも賜いし主イエス・ハリストス我等の神は、願くは爾に、神子や、此の世に於て行し自由と不自由との諸罪を赦し給わん、今も何時も世世に。
アミン。

詠
聖天主、聖勇毅、聖常生なる主、我等を憐めよ。
※(出棺に際し、「聖天主を歌う。」)

司
地と之に満つる者、世界と凡そ之に居る者は皆主に属す。
※(墓所に遺体を葬る際、司祭は左の文を唱える。)

【附録】

「靈魂出離の祝文」(「臨終規程」より)

司
主宰・主・全能者、我が主イエス・ハリストスの父、衆人の救を得て真理を知るに至るを欲し、罪人の死するを欲せず、其轉じて生きんことを欲する者や、我等爾に祈りて切に求む、爾の僕(婢)「某」の靈を凡その縛より解き、凡の誓詛より放ち、彼に其幼き時より、知ると知らずして、行と言にて犯しし諸の罪、已に明に告解せし所、或は忘に因りて、或は恥に因りて隠しし所を赦し給え、蓋爾は独縛られし者を釈き、傷められし者を改むる主、望を失いし者の望、凡そ爾を待む人に罪を赦すを能する主なり、嗚呼人を愛する主や、爾の僕(婢)「某」が肉體と諸罪との縛より釈かれんことを命ぜよ、且彼の靈を平安に納れて、之を永久の住所に、爾の諸聖人と偕に安んぜしめ給え、爾の独生子、我等の神、救世主イエス・ハリストスの恩寵に依りてなり、爾は彼と至聖至善にして生命を施す爾の神と偕に崇め讃めらる、今も何時も世世に。
アミン。